

道中の中間には、集落ではないが、民家や畑もある。

山水との出会い。手洗い。頑張った場所もあったので、汗。実に気持ちがいい。

貴重な文化遺産があるのだろう。火事は困る。消火の給水設備。



～～山はみどり 野に花 人にはこころ～～

ユーモア小説「東海道中膝栗毛」を書いた十返舎一九の碑との出会い。

ここは中山道。主人公は、弥次郎兵衛と喜多八、繋げて、「弥次喜多」滑稽本。

「膝栗毛」とは、**自分の膝を馬の代わりに使う、徒歩旅行**のこと。

今回の旅は、京都三条大橋がスタート地。弥次喜多の像があったので、立ち寄っている。

私の旅も、膝栗毛のような、ただし、ひとり旅。ある面で、珍道中。

